

2008 **6**

2号

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

Matsumoto Medical Center

理念

いのちの尊さを重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

まつもと医療センター

- ◆大原副院長 就任の挨拶 2
- ◆まつもと医療センター開院式典 2
- ◆神應透析クリニックご紹介 3
- ◆進化する眼科治療―医療トピックス 4
- ◆中信松本病院 小児科のご案内 6
- ◆看護の日 8
- ◆松本病院 相談支援センターのご案内 10
- ◆お知らせ 10

副院長就任の挨拶

夢の実現に向けて前進



副院長
おおはら しんじ
大原 慎司
(中信松本病院)

5月1日付けでまつもと医療センターの副院長を拝命しました。私は平成10年に中信松本病院が2つの国立療養所の統合により開設されたときに、神経内科を立ち上げるために信州大学より赴任しました。平成15年からは診療部長に任命され、地域連携室の立ち上げや病院機能評価の受審などに従事しました。このたび、松本病院と中信松本病院は組織統合して、1組織2病院のまつもと医療センターとなり、それぞれの病院に副院長が置かれることになりました。微力ではありますが、米山新院長のもと、北野副院長はじめ職員の方々と力を合わせて、地域の人人々から信頼されるセンターづくりをめざして邁進したいと思います。

歴史を振り返ってみますと、松本病院と中信松本病院（とその前身）は、国が運営する公的な病院として、時代のニーズに応じた役割を果たしつつ今日に至りました。松本病院は明治41年の松本衛成（えいじゅ）病院としての創設が始まりです（衛成／軍隊が永く一つの地に駐屯すること＝広辞苑）。

昭和11年に松本陸軍病院となり戦後に厚生省に移管されました。一方、中信松本病院は、平成10年に、松本城山病院と東松本病院の二つの国立療養所の統合でできました。城山病院の発祥は昭和15年の結核の療養所の開設、東松本病院は昭和19年の母子寮創設がスタートでした。言うまでもなく、これら多くの先達の方々の営々とした努力の上に、現在のまつもと医療センターがあります。私たちは次の世代に、どのような病院をバトンタッチすることになるのでしょうか。今回の統合で、病院は2つあわせて病床数540、職員500名という大きな組織となりました。この統合が、地域の人人々から本当に良かったと評価してもらえるようにしたいものです。

将来は一体地に1病院としてまとまるという夢の実現に向かって、これから私たちの正念場です。そのためには、まつもと医療センターの経営の健全化は急務であり、今年から病院の再生をかけて、「再生プラン」がスタートしました。一方で、医療を取り囲む環境が厳しいなか、病院は、より質の高い安全な医療の提供を求められています。職員のみならず、皆さまには、よろしくご協力をお願いいたします。共通の目標に向かって、皆で大いに意気やアイデアを出し合いましょう。

開院式典

まつもと医療センターの開院式典が、5月15日の夜、地域の病院や診療所の医師・信州大学などの関係者の方々などをお招きして、市内のホテルで開催されました。式典は、北野副院長の司会で行われ、米山病院長の挨拶に続き、機構本部の理事長の挨拶（山西理事）、来賓を代表して信州大学医学部付属病院の小池病院長、須澤松本医師会長、三澤塩筑医師会長からご祝辞を頂き、祝電が披露されました。引き続き別室での祝賀会となり、来賓の小松彦太郎前中信松本病院長（名誉院長）、勝山努前信大病院長からスピーチを頂きました。歓談の間に、当センターの小池救急部長、岩崎小児科部長から診療科の紹介が行われました。まつもと医療センターの新しいスタートに寄せて、参加者の方々から熱いエールを贈って頂いて、2時間余りの会は盛況のうちに終わりました。



診療所の先生紹介



神應透析クリニック

かん ゆたか
神 應 裕 先生



〒390-0821
長野県松本市筑摩2-17-5
TEL (0263) 24-0852
FAX (0263) 24-0876
E-Mail
kannohtd.k-dac@got.tvm.ne.jp

2006年12月20日に松本駅から車で10分程の場所に、「患者さんが安心と納得ができる質の高い透析を提供する」「ほのぼの」をコンセプトに、透析と保存期腎不全治療及びバスキュラーアクセス手術を主たる診療内容とした、クリニックを開院しました。

当院では外来透析の他に、シャント関連手術（初回シャント作製、シャントトトラフル）、インターベンション治療を日帰りで行っています。血管造影室の他に手術室もX線防壁としました。血管造影は外科用イメージで手術室に装置を移動することで、手術室で手術とPTAが併施でき、施行日や場所を変える必要がなく患者さんにはメリットではないかと考えます。又、緊急を要する患者さんに充分対応できるシステムとしております。

外来透析では、血液透析に使用する透析液の清浄化を図り Ultrasure となっており、2台の個人用 on-line EDF 透析装置以外のコンソール全て、on-line EDF 仕様で、うち1台は、B型肝炎対応の個人用透析装置としています。また、2種類の透析液を使用するため、2台の多人数用透析液供給装置を備えています。on-line EDF とは、通常の HDF で使用する専用置換液の代わりに、「透析液」を置換液として使用し大量液置換を可能にした方法です。大きなサイズの毒素をより多く取り除くことができ、透析効率も飛躍的に向上するため、長期透析の合併症予防、特に透析アミロイドシスの予防に大きな力を発揮することが期待できます。その結果、QOLの向上が可能となります。

その他、指導や情報収集、相談、診察は、医師及び看護師が診察室で行う等、プライバシーへの配慮も心掛け、快適に過ごせるように、室内の温度ムラがなく均一に暖かくなる床暖房とし、更衣室の入り口は、自動ドアを設置し車椅子、四肢に障害のある患者さんに配慮しました。

当クリニックの患者サービスは、良質で十分な治療を提供することです。ぜいたくな建物や高い医療機器だけではなく、透析患者さんが納得できる良質な透析医療を核に、患者さんが安心して「ほのぼの」と過ごせる環境を作っていく事だと思っています。

松本の歳時記
6/30~7/1
鳥立の裸祭り
(津島神社例祭)

リレー形式

最近の診療トピックス(10)

進化する眼科治療

～より良い視機能を、
一生維持するために～

30年ほど前まで、眼科は感染症の治療が中心でした。しかし、現在、様々な病態解明、検査装置・治療器具・治療薬の発達により、失明につながる眼疾患と戦うことが可能になってきています。

今日は、平成19年度の厚生労働省の統計における成人失明原因1、2、3、4位の疾患についてお話しさせていただきます。

①緑内障…失明原因の1位です。眼圧が高いこと、あるいは眼圧に対する視神経の抵抗力が弱いことで、視神経が障害され、視野欠損が生じる病気で、初期には自覚症状がないため検診を受けていただかないと発見されません。全住民を調査した多治見市の study によると、40歳以上の人の約20人に1人が緑内障という結果が示されています。一旦障害された視神経（視野欠損）は回復しません。40歳を超えたら、眼

底検査を受けて頂くことが大切です。様々な機序で眼圧を下げる、効果の高い点眼液が開発されており、失明を予防することが可能です。

②糖尿病網膜症…糖尿病網膜症での失明は減少中で、首位の座を緑内障にゆすり2位です。しかし、読書や運転免許に必要な良好な視力を失う原因としては未だに圧倒的に首位です。単純網膜症、増殖前網膜症までは、視力低下をきたさないことが多いため、糖尿病歴20年でも眼科受診をされない方がいらっしゃいます。視力低下の症状が出てから眼科の治療をはじめても、良好な視力に回復させることが困難です。糖尿病と診断されたら、眼科の定期受診をお願いします。視力が低下する前、適切な時期に網膜光凝固を受けていただくことで、失明にいたることを防ぐことができます。進行してしまった糖尿病網膜症には、硝子体手術が効果的です。近年、糖尿病網膜症の失明例が減少している一番大きな原因は、この手術が進歩したことといわれています。

また、抗悪性腫瘍薬のベパシズマブが糖尿病

網膜症の治療に用いらはじめています。ペバシズマブは、血管内皮増殖因子(VEGF)に対するモノクローナル抗体です。VEGFは、血管新生に必要な調節因子ですが、癌細胞内では、血管新生を促すことで栄養や酸素の供給を高め、癌細胞の増殖や転移に関与しているものと考えられています。糖尿病網膜症もこのVEGFが大きく関わっているため、ペバシズマブが効果を示します。ちなみに、糖尿病網膜症の視力低下の原因となる網膜浮腫とVEGFの関係を、世界で最初に示したのが信州大学眼科の村田教授です。

③加齢黄斑変性：日本では失明原因の3位ですが、米国では第1位で、日本でも増加の一途をたどっています。黄斑の細胞が、加齢などで壊され「ものがゆがんで見える」「視界の中心部が暗くなる」といった症状があらわれます。原因としては加齢や遺伝的要因のほか、カロチンの不足や喫煙などが指摘されています。レーザー治療や光線力学療法などが主な治療となります。

④白内障：白内障手術は、25年ほど前までは、

眼球を半分切開して水晶体を摘出していましたが、現在は、超音波乳化吸引術と眼内レンズの進化により、3mmの創口から水晶体を摘出し、レンズを挿入することが可能になりました。これにより、術後の乱視が軽減し、術後眼内炎のリスクも低くなりました。さらに、2mmの切開創から手術を行う極小切開手術、遠近両用の多焦点眼内レンズも実用化されてきています。

当院では、入院による白内障手術を行っています。内科的疾患が不安であること、体が御不自由であること、御高齢であること、遠方にて通院が難しいこと…などで、手術を躊躇されておられる患者様がおられましたら、是非ご紹介下さい。より良い視機能は、Quality of lifeを高く保つために大変重要なことです。

眼科医師 村田暢子



安心できるやさしい医療を提供する小児科として

～充実した体制で子どもたちの現在・未来を支えます～

新しい小児科の体制



小児科部長
いわさき やすし
岩崎 康
(中信松本病院)

まつもと医療センターの発足に伴い、小児科は中信松本病院に集約いたしました。おかげさまをもちまして、新年度もスムーズに診療を開始することができました。ありがとうございます。

小児科は8人の医師で診療します。そのうち6人が小児科学会認定の専門医資格を有しており、県内におきましては信州大学、県立こども病院に次ぐ規模の小児科中核施設となりました。各医師は小児科全般の医療を広く診療しながらもそれぞれに専門をもっており、小児科専門分野のほとんどの領域を当科でカバーできるようにいたしました。各医師の専門領域につきましては本広報誌4月創刊号をご覧ください。

これまで両院で行ってまいりました、急性期医療、慢性疾患医療、障害児・者医療を3本柱として、それぞれをさらに発展させてまいりたいと考えております。急性疾患につきましては、松本市内、周辺の二次医療機関と連携を強く保ち二次輪番のうちの多くを担当します。松本市夜間急病センターと協力し緊急対応に「たらいまわし」などない安心できる医療をめざします。神経疾患や腎疾患、発達障害、小児心身症等の慢性疾患については、これまで中信松本病院で培われてまいりました多くの福祉部門スタッフと協力しつつ、寿台

養護学校のご支援をいただきながらやさしい医療をめざします。障害者医療については、ふたつの重症心身障害病棟(重心病棟)を担当しながら長野県内各機関と連携し長期的展望をもった医療をめざします。これらの重点分野につきましてはそれぞれ今月号、次号にわたり詳細をお伝えしてまいります。

現在の状況では未熟児医療に対応するのが難しい状況ですが、成熟新生児の診療につきましては対応が可能です。長期的には、まつもと医療センターで周産期医療にも対応していけるよう調整してまいりたいと考えております。

小児科勤務医不足の時代に8人の小児科医が在籍するという充実した体制で再スタートできるのも、信州大学小児科はじめ関連する病院小児科医のご理解、ご協力によって成り立っているものです。そういったご支援に報いるよう、この地域の小児医療の充実、若手小児科医の育成にも力を入れるとともに、勤務医のモチベーションを保ち疲弊していくことのないよう工夫し、小児科勤務医不足の問題に歯止めをかけたいと考えております。

松本病院で月に1回行ってまいりました症例検討会も当院で引き続き行ってまいりますので、ご開業の先生方や地域の小児科専門医の先生方にご参加をお願いし、活発な討論を頂きながらわれわれの医療が少しでもレベルの高いものになりますようつとめてまいります。

患者様、ご家族の皆様からもご意見ご指導いただきながら、新しいまつもと医療センター中信松本病院小児科を地域全体で育てて頂きますよう、かさねてお願い申し上げます。

急性期医療について



小児科医長
北原 正志
（中信松本病院）

まつもと医療センター発足に伴う小児科の集約化によって、ここ、中信松本病院のひとつの地で、松本広域における多くの小児科二次輪番日を担うことになりました。平日は火木金曜日、休日は第一日曜日、第二土曜日、第四日曜日、第五の土日曜日が担当となります。松本市夜間急病センター、松本広域の一次、二次医療機関との連携のもと、入院加療の必要な患者さん、紹介患者さんに迅速に対応します。夜間急病センター稼働終了後は、患者さんの状態および希望に沿って臨機応変に対応いたします。また、当院小児科医は、松本市夜間急病センターにも出務し、松本市の一次救急医療にも協力をしていきます。平日の非当番日は、夜間急病センター稼働までの空白の時間帯となる19時までは小児科医が待機して、開業の先生方の入院要請に対応できる体制としています。一般小児科病棟、二つの重症心身障害者病棟の合計3つの病棟での回診および処置と平行しながら救急

診療にあたっているため、双方に支障の生じない円滑な診療を継続的に行える体制の整備が課題です。集中治療の必要な、より重症の患者さんは、その疾患に応じて信州大学医学部附属病院や県立こども病院へ受け入れを要請し、連携、協力を図ってまいります。

入院加療を要する急性疾患の多くは、肺炎、熱性けいれん、脱水などの感染症ですが、川崎病の急性期やてんかんのけいれん発作、腸重積などの非感染症も対象となります。また、気管支喘息などのアレルギー疾患や、膀胱尿管逆流症やネフローゼ症候群などの腎尿路疾患も、急性期医療の中で発見され、慢性疾患として継続的経過観察や加療の対象となっていくため、急性期医療は極めて重要な位置にあります。時として経験するまれな疾患や非典型的な症例においても、8人の小児科医が協力することで早期診断、早期解決に努めていきます。特殊な検査が必要な場合、まれな疾患で更なる専門的な診療が必要な場合は、信州大学、県立こども病院とも協力して患者さんの利益が高まるようにしたいと考えています。

中信松本病院 小児科外来医師担当表

平成20年6月1日現在

診療科名	疾患名(扱う病気)		月	火	水	木	金	土	日
小児科	小児科全般 (感染症、神経、血液、免疫・アレルギー、循環器、川崎病、腎臓、内分泌、肥満、発達障害、心身症、不登校、乳幼児健診・予防接種、重症心身障害)	午前	岩崎 康 倉田 研児 新美妙美	山田 慎二 竹内さつき 松浦宏樹	北原正志 石田修一 倉田研児	岩崎 康 松浦宏樹 新美妙美	北原正志 山田 慎二 竹内さつき		
		午後	岩崎 康 北原正志 山田 慎二	石田修一 倉田研児 新美妙美	竹内さつき 松浦宏樹 新美妙美	岩崎 康 山田 慎二 石田修一 松浦宏樹	予 防 接 種		
二次救急				毎 週		毎 週	毎 週	第 2 第 5	第 1 第 4 第 5



看護の日

松本病院 看護週間

松本病院 副看護師長

寺澤 明美
てらさわ あけみ

平成20年4月から松本病院は、中信松本病院と1組織2病院の「国立病院機構まつもと医療センター」として、松塩筑地域南部の医療を担い始動いたしました。私たち看護師は気持ちを新たに団結し今まで以上に、より専門性を発揮し地域に根ざした病院として、皆様に安全で安心な誠意ある看護を提供するように努めています。

地域での活動の一つとして、5月10日(土)に、塩尻広丘「GAZA」にて「1日街の保健室」を開催いたしました。これは、5月12日ナイチンゲール生誕を記念し「国民の間に看護の心助け合いの心が育つように」と制定された「看護の日」のイベントで、昨年に引き続き2回目となります。5月10日はあいにくの雨でしたが、開始30分前より会場には大勢の皆様が待っていてくださり、200名近い地域の皆様に参加していただきました。参加者には健康カードを配布し、看護師による血圧・身長・体重・体脂肪・血糖測定、検査技師による骨密度の測定を行い、その後、医師による健康相談や栄養士による栄養指導を受けていただきました。また、子供を対象に「白衣体験」を

行い記念撮影をし、その場で手渡しました。子供達の緊張した照れくさそうな顔と、ご両親のほほえましい顔が印象的でした。広場では風船を用いた「バルーンアート」も行い、子供達には大変好評でした。参加いただいた皆様からは、「病院に行って検査を受けたくても、仕事の都合で無理だったから、こういう催しはありがたい」「自分の食生活をもう一度見直してみようと思った」「無料で血糖・骨密度を測ってもらい、食品サンプルもいただけ得した気分だった」「親が満足するだけではなく、子供も楽しめた」「健康について聞けて嬉しかった」など言葉を聞き、「1日街の保健室」は幅広い年齢層の皆様

に満足していただけたと思います。イベントを通して、皆様が自分の健康に関心を持ち、現在社会的問題になっているメタボリックシンドロームを意識していることがわかり、健康についての関心の高さを感じました。そして健康の維持増進という点からも、地域の皆様が病院から退院する時には、健康管理についての指導の必要性を再認識しました。このような機会を活用し、今後も地域の皆様の健康に貢献が出来ればと思います。



看護のパワーが皆様を支えます

中信松本病院看護週間

看護週間（5月12日～8日）に合わせて中信松本病院では看護師による無料健康相談を実施しました。170人を超える方が来場くださり、外来ロビーは時ならぬ混雑に活気づきました。骨密度、動脈硬化、体脂肪、血糖値の測定を行い、結果をみながら健康上のアドバイスをさせて頂きました。

中信松本病院

看護師長 田辺 サエ子

4月1日付で松本病院から中信松本病院に配置換えとなりました。新しい場所で自分の役割を果たせるよう頑張りたい



と思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。松本病院から10分ほど、緩やかに坂を上り詰めたと



病院の各病棟の紹介をパネル展示

ところに中信松本病院があります。5月になると病院は一面柔らかな新緑に生まれかわやかな気持ちになります。この季節に看護部はナイチンゲール生誕にちなみ「看護週間」として地域の皆様に看護をアピールしております。今年はずっと医療センターとなって初めての取り組みでした。お互いに松本病院は院外施設で、中信松本病院は院内のホールで開催しました。地域の皆様に健康について考えていただけるように相談室や計測の場

をもつけ、限られた時間でしたが地域の方とふれあうことが出来ました。骨密度・体脂肪・脳年齢など計測し、健康管理のポイントや、日ごろの心配事について相談をお受けしました。中信松本病院のホールは用意した椅子が足りなくなる程の大盛況で、長くお待たせしてしまう場面があるほど沢山の方にご利用いただきました。社会の動きが「自らが病気を予防する」ことを大切に時代へと変化している中、多くの方に関心を寄せていただけたので、今回は皆様のニーズにあった企画だったので、今回は皆様のニーズにあった。組織が統合し、看護部は両病院を合わせ総勢270名の大組織となりました。1人ひとりの看護師の持つ力は小さくても、それを合わせるとものすごく大きなエネルギーとなります。その力をもって、看護部の理念のもとに目標を定め、同じ方向を向いて何かを起こそうと頑張れば、今までできなかったこともできるとできる予感がします。今回の「看護の日」の取り組みのようにこれからも看護の力を地域の皆様に向けて発揮できるよう、私も周囲の皆様と協力しながら力を尽くしたいと思います。



健康についてアドバイス

松本病院 相談支援センターのご案内

松本病院ではがん患者さんとご家族の方の相談窓口として「相談支援センター」を開設しました。

受付時間／月～金（祝祭日除く）
9：00～16：00

相談場所／相談支援センター

相談内容／がんに関することは何でも

診断や治療、検査などに関する疑問、療養上の不安や悩み、がん診療や地域医療機関、セカンドオピニオンなどのご案内、福祉制度の活用などの情報提供、転院や在宅療養支援などの退院調整 など

スタッフ／医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務

直接、ご来院いただくか、お電話でご相談ください。お話を伺い、内容によっては相談予定日

や担当者を調整させていただきます。相談にかかる費用は無料です。（医師の診察やセカンドオピニオンは有料となります）

連絡先／

松本病院（代表）
TEL 0263-58-4567

地域医療連携室（直通）
TEL 0263-86-1281・2



松本病院

市民公開健康講座

「ともじ癌（がん）に立ち向かおう」

6月14日（土） 14：00～16：00
松本病院会議室にて

「消化器癌の外科治療」

小池祥一郎

「乳癌の診断と治療」

金井 敏晴

7月19日（土） 14：00～16：00
松本病院会議室にて

「がんの告知」

北野 喜良

「がんの痛みと緩和ケア」

井上 泰朗

勉強会

診療所の先生方とセンター医師合同の勉強会です。

毎月第3木曜日

内科・外科勉強会

松本病院第2カンファレンスルーム
19：00～20：00

松本病院

健康教室

地域の皆様対象の健康教室です。おさそい合わせの上お申し込みください。

月日	時間	場所	内容
7/15（火）	13:30～15:00	中信松本病院 第1会議室	禁煙・肺癌
6/17（火）	13:30～15:00	中信松本病院 第1会議室	脳血管障害

中信松本病院

在宅医療研究会

在宅医療を支えて下さる地域のスタッフの方が対象の研究会です。5月はリハビリ実技、7月は松本歯科大松尾浩二先生をお招きして行ないます。

月日	テーマ	会場
7/10（木）	摂食・嚥下	第1会議室
6/12（木）	生活動作	リハビリテーション科

編集後記

初夏を迎え、安曇野では田植えが終わり、田んぼは一面鮮やかな緑色と変わってきました。

まつもと医療センターも新しい組織となり早2か月が過ぎましたが、まだまだ業務に落ちつかない日々を過ごしています。なんとか稲穂のように、着実に成長していきたいと思っておりますので、引き続き編集委員一同よろしくお願ひします。

（K）



まつもと医療センター

第2号 平成20年6月1日発行
発行人 院長 米山 威久
松本病院
〒399-8701 長野県松本市芳川村井町1209
TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183
<http://www.matubyo.jp/>
中信松本病院
〒399-0021 長野県松本市寿豊丘811
TEL.0263-58-3121 FAX.0263-86-3190
<http://www13.ocn.ne.jp/~ncmh/>